

令和3年度 第4回 江別市かわまちづくり協議会

日 時 : 令和4年3月29日(火) 10:00~

場 所 : 江別市民会館37号室

次 第

1 開 会

2 議 事

- (1) 前回協議会の振り返り 【資料1】
- (2) かわまちづくり勉強会開催報告 【資料2】
- (3) かわまちづくり計画書(素案)に対するパブリック
コメントの実施結果について 【資料3】
- (4) かわまちづくり計画書(最終案)について 【資料4】
- (5) 今後の予定について 【資料5】
- (6) かわまちづくり協議会について 【資料6】

3 その 他

4 閉 会

令和3年度 第3回江別市かわまちづくり協議会 会議録（要点筆記）

日 時：令和4年1月24日（月） 10:00～12:00

場 所：江別市民会館小ホール

出席委員：小篠隆生会長、鴻野徹副会長、内田悟委員、町村均委員、林匡宏委員、
境珠美委員（計6名）

欠席委員：高橋利光委員、藤原英大委員

事務局：経済部長、経済部次長、商工労働課長、観光振興課長、総務部契約管財課長、
企画政策部政策推進課長、建設部管理課参事、同主幹、治水課長、教育部郷土
資料館長、江別河川事務所（3名）、商工労働課主査（1名）、ほか1名

傍聴者：なし

会議概要

1. 開会
2. 議事

(1) 前回協議会の振り返り（説明：事務局 川島商工労働課長）

(2) かわまちづくり勉強会開催報告（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 小篠会長：一か月に一回というペースで勉強会を仕掛けていったことで、今まで参加していなかった地域の方々も非常に熱心に参加されるようになったということと、かわまちづくりをきっかけにしながら地域に情報がフラットに伝達される場が生まれたのは大きかったと思う。自分たちが住んでいる条丁目地区自体のまちづくりをどう考えていくのかということに連動して、どうやってまちづくりを実施していくのかという運営に関わる話にも発展しているので、その辺がうまく絡まってきていると思う。

(3) かわまちづくり計画書の概要（説明：事務局 川島商工労働課長）

(4) かわまちづくり計画書（素案）について（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 林委員：25 ページのソフト施策のところ、①から⑤まで具体的な書き方になっているが、「例えば」や「など」と付けておかないと、出た意見はこれだけです、あるいはこれは絶対やりますというふうに見えかねないので、その辺の見せ方は工夫してもいいのではないか。これを地域の勉強会の参加者が見たときにどう思うかといった視点も大事だと思う。29 ページの整備工程のスケジュールも「今段階の」や「未定」と書いてもいいと思う。ここは地元の人がかなり気になっているところだと思うので、丁寧に説明すると思う。30 ページの維持管理計画は、日常のことしか書いていないので、非日常のイベント等の短期的な取り組みや中期的な企画、一定期間水辺の施設を占有するようなときも、行政と地元の関係者、民間事業者、皆で連携してマネジメン

トしていきますという文言があつていいと思う。もう少し今の勉強会で話しているような、ワクワクするようなことを皆でやっていくということが感じられるような書き方だと思ふ。それと、27 ページの体制図はとても大事なもので、これを国交省や地元に対して提示するには、それなりに覚悟を持って示さなければならないと思ふ。記載する団体の名前は結構デリケートな部分なので、丁寧に確認をする必要がある。個人的には、こういうものはしっかり皆で確認した上で整理した方がいいと思つている。この図を協議会としてどう受け取るのかについては、皆さんに確認させてもらいたい。

- ・ 小篠会長：この図は前回の勉強会で出ていたものだが、この図に対しての意見はいただけていないので、じっくり練りこんで見ていくのであれば、今回がいい機会だと思ふ。今日の協議会のあとすぐに勉強会があるが、協議会の方で一旦かわまちづくりの計画書の大まかな内容の方向性について皆さんの承認をいただいた上で、勉強会にそれを出して、勉強会の方から意見をいただいて加筆修正するというようなことは出来るのか？
- ・ 川島商工労働課長：2 日後にある勉強会でも素案についての説明をするので、そこでまた意見はいただけると思ふ。そしてそれを経て、更にこの素案について市民意見をいただくプロセスを取りたいと思つている。具体的には、この案に説明を加えた上で、全市向けにパブリックコメントを出すということになると思ふ。1 か月間くらい期間を取って、市民からの意見なども併せて、この素案に盛り込める要素あるいは変更しなければいけない要素があれば、素案に反映させていくことになると事務局としては考へている。そういった意見を経たものを、最終的にこの協議会で確認していただくというプロセスを予定している。
- ・ 小篠会長：今日は最初のキックオフ的な話のレベルにいるという理解でよいか。このかわまちづくり管理運営組織というのが、実際にどういう位置づけの団体になっていなければならないのかということもあると思ふ。開発局から委託を受けたいわゆる指定管理を受けるような様相になるのか。今日は河川事務所の方もいらっしゃるからその辺も含めて伺いたい。
- ・ 川島商工労働課長：基本的には開発局から直接ということではなく、市がこの計画に基づいて堤防エリアを使用する許可をもらって、形態は指定管理という制度上どうなるか難しいが、管理運営する組織に市の方からお願いする形になると思ふ。市が管理する形で国から借りている施設を市の施設として出せるかどうかは確認しなければならないが、市が借り受けたものの管理部分を、この計画に基づいて進めていただけるような団体をお願いするというイメージになると思ふ。
- ・ 小篠会長：28 ページで市が整備するものと国が整備するものの区分けがある

が、かわまちづくり管理運営組織はここを使用するために様々な計画を作るわけで、その管理運営について委託を受ける話になったときに、どういう形態の組織だったらそれを受けられるのか、どういう形態の組織になっていなければならないのかということがあるのではないかと。今はなんとなくこういう人たちが集まって運営組織を作りましょうでいいのだが、任意団体でやるのか、それとも工程表に含まれた組織まで仕上げていくのかで、このあとの団体を作り上げていくためのプロセスが全然変わってくると思う。

- ・ 林委員：体制の議論をしているが、18 ページの図の方がわかりやすいと思う。この団体が何をやる団体かというときに、活動フィールドにある 3 つの区画を跨いでマネジメントしていくというかなり先進的な理想の組織だが、多分やったことがないと思うので、そういうものも踏まえて段取りを練っていかなければならないと思う。
- ・ 小篠会長：どういう法人委託をとるか組織体制にするかは、何をやるかによって決まってくると思う。この管理運営組織は具体的に何をやるのかという話をリストアップしていくと、それにはどういう組織体制が必要か、こういうものもあったらいいというような話になってくると思う。
- ・ 川島商工労働課長：ここも協議会での議論を相当していただく必要のある要素である。今の時点では計画の中で方向性としてまとめていて、江別市がまず国の方から占有許可を使う許可をもらい、地元の運営組織と市の合意に基づいて、運営組織がこのエリアで何かをやりたい人に対する許可を出して運営していく形になるのかと思う。協議会については、きちんとそれが計画に基づいて実施されているか確認・指導していくような位置づけのものが要ということで、ここに図示している。これはまずは案として作ってあるので、この案のこの図式が固定ではない。このあと更に議論しながら固めていくことになると思う。事務局としては考えている。まちづくり活動も含めて、どういう方たちがどういう形態の組織でやるべきなのかというのは、それを指導監督していくような組織である協議会組織というものが見ていくという考え方に基づいて、この協議会の場である程度意見をいただいて方向性を出していきたいと思う。事務局としては考えている。
- ・ 小篠会長：江別市の中で、行政と地域住民とが一体となってまちづくり活動をしている、公的なまちづくり活動組織というものはあるか？そういうものがあるとモデルにしやすいが、それが無いとするとまったくゼロベースなので、この協議会でこれがいいか悪いかの判断がすごくつきづらいのではないかと。協議会と勉強会で何度も何度もやりとりしないと、結局決まっていかなさそう。
- ・ 川島商工労働課長：まちづくりに関する市の団体というと、例えば市民活動・

協働ネットワークがあるが、それはこの計画の位置づけの組織とは趣を異にする感じなので、江別市としてはまったく新たな形で進めて何かを作っていないと、事業評価しようにも適切にしていけないということがある。このあと開催する協議会あるいは勉強会の中で、より具体的に、適切になるように形を作っていただくことになると思う。非常に難しいと思うし、それを動かすのはなかなか困難と思われるが、これまで市民の皆さんからいただいた意見に基づいて、出来る限りそこに近づくようなものに検討していけたらいいと思う。

- ・ 小篠会長：ここで決めなくてはいけないとなると非常に意見を出しにくいと思うので、協議会としてはこのかわまちづくり計画書について、どういうことをもっと今後審議していくべきであるとか、決めていかななくてはならないのではないかなというように、付帯意見をつけるという形で今日は進めていきたいと思う。
- ・ 内田委員：質問になるが、2日後の26日にかわまちづくり勉強会が開催される予定だが、この資料は、特に18ページの推進・維持管理体制（案）というこの図は示される予定なのか。
- ・ 川島商工労働課長：計画書だけだとわかりづらいという指摘があったので、この図も使って説明するつもりだ。
- ・ 内田委員：この図は相当わかりづらいので、これを26日に提示して、これに着目した話を進めると、また揉めるのではないかと心配している。この維持管理体制の図式の案というのは、シンプルな方がいいのではないかなと思う。26日の勉強会では、この部分についての説明はさらっと流した方がいいと思う。
- ・ 小篠会長：勉強会の時はその方がスムーズに進むだろうと思うが、この図が今、かわまちづくり計画書の素案の中に載ってしまっているので、そこに載せていいのかなという話もある。
- ・ 林委員：勉強会等では、もうちょっとぼかしてわかりやすくして示すというのも有りだと思う。ただ、国に最終的に出す時には、このレベルまでまた引き上げる必要があると思う。26日の段階ではもうちょっとぼかした表現にして、今ここで案として挙がっている人たちがもっと密にこの話をする場をしっかりと設けて、国に提示していくという段取りがいいと思う。
- ・ 川島商工労働課長：ここでいただいた意見に基づいて、申請する場面と市民に対して説明する場面とで、誤解のないように理解しやすい形で整理していきたいと思う。
- ・ 小篠会長：運営組織というのは、かわまちづくり計画書を作る場合、どうしても作らなくてはならない。先行しているところが、どういう組織づくりを行っ

ているのかということが、私たちの目指すべき目標につながっていくと思うので、その辺の情報があつたほうが良いと思う。そうでないと、何を要するのかわからないという団体にすればいいのか、まったく道標もなしに話していくのは相当時間を要するし、まず作れないと思う。

- ・ 川島商工労働課長：全国的な事例などを含めて示しながら議論していただくことになると考えている。
- ・ 境委員：この図を見て、まだ具体的な話をしていないのに、具体的な団体の名前などが出ているのは、案であっても揉める危険はありそうだという懸念はあつた。そもそも、あそこをどういうエリアにするかというテーマを決めようという話が前にあつたと思うが、かわまちづくりがどこを目指しているのか、何を大切にしているのかというところも、この協議会で詰めて決めた方がいいと思う。そうでないと、いろんな人がいろんな意見を言って迷走してしまうし、外側の連携していく人にとっては、がっちりとした受け皿がないと、自分も参加しなかつていづらくなつてしまう気がするが、どうでしょうか。
- ・ 小篠会長：13 ページの図が、勉強会で出た意見をまとめた基本方針となつている。これにある程度のところは書かれていて、この目標を実現するための運営組織としてかわまちづくり管理運営組織を作るとなつていた。逆に言えば、かわまちづくり計画書の方にこの図が入つてこない、何のための運営組織かわからないと思う。
- ・ 川島商工労働課長：この図は申請するとき入れていないが、基本方針の最後の段落に記載しているということでご理解いただければ。これも申請にあつて詰める必要があると思う。基本方針については、このまとめたものに基づいて計画書を作つているので、そのように捉えていただければと思う。
- ・ 林委員：基本方針のところは勉強会で2~3回やったあとに、この会を作つて誰のためにどこで何をやるのかという話をしたが、あまり詰められていない。条丁目エリアがこのあとどういう方向性に行くのかというのは、本当は維持管理体制が設置される前にもっと議論が必要かなと思う。個人的にはもうちょっとキレのあるテーマが良いと思つているが、それを皆で意思決定するまでには結構何年もかかつてしまいそうなので、その辺の進め方は要検討だと思う。13 ページに目標と基本方針がまとめてあるので、ここを精査しながら、かわまちづくり計画の中にしっかり載せるというところまで持っていけたらいいと思う。
- ・ 境委員：確かにすごく難しく、あそこについて思うのは、決まったメンバーしかいないということ。これは計画を実現して継続していこうと思つると、協力して本当に動いてくれる方が限られている。すごく立派なスローガンやテーマを掲げて、それをやりたい人がいなかった場合、実現不可になってしまうの

で、参加する意思や興味があるような人をピンポイントで呼んで勉強会に来てもらったり、個別に話をしてもらうのはどうかと思っている。

- ・ 小篠会長：勉強会でやり取りをしながらかわまちづくりの概要について詰めていくプロセスがあって、そのあとに市民意見を広く聞くパブリックコメントをかけたも、多分意見はほとんど出てこないの、計画書についての批判的な意見だけを書くのではなくて、自分が参加するならこういうことが出来るということも含めて意見が欲しいとか、こういうことをいま考えているが積極的に参画をしてくれないかというようなパブリックコメントをかけるということ、協議会として条件を付けて事務局や担当者に提案しておくというのは有りかもしれない。全体としても参加を募っていかないと継続は不可能だと思う。それをうまく行政手続きの中でやっていくということを考えてはどうかと思う。
- ・ 川島商工労働課長：パブリックコメントの出し方として、そこにいただく意見の範囲を補足的に表示するのは特に差し支えないと思う。出し方は整理したいと思うが、要素を意見としてくださいというのは問題ないと考えている。
- ・ 小篠会長：勉強会の時にも、こういうような形でパブリックコメントを取るの、広く周りの方々に聞いてもらって、自分だったら何ができるかということを書いて出してくださいということが出来る。
- ・ 川島商工労働課長：私どもからも、このあとパブリックコメントをやりまですの、そこでもぜひ意見をくださいと案内しようかと考えている。
- ・ 小篠会長：24 ページには、行政の都市計画マスタープランの絵だけじゃなくて、13 ページの基本方針を載せるべきなのではないか。ソフトのところ運営組織が出てきて、そこでいきなり市民の参加の話が出てくるので、その計画というの、協議会でやっているということを見せるためにも、この図は24 ページに載せるべきだと思う。
- ・ 川島商工労働課長：その辺は申請にあたって調整したいと思う。
- ・ 林委員：28 ページの下の絵について、これは勉強会の議論内容を入れ込んだものだと理解しているが、このあとの勉強会でもこの絵に対して意見をもらうことになると思う。これもまた地域の方々、勉強会の人たちに対してこれでやりまですとは言えないと思うので、その辺も丁寧にやっていかなければならないと思う。この絵が協議会で承認を得たというようにならないのかとか、この絵に対して協議会としてはどう捉えるかというところを確認したほうがいいと思う。
- ・ 川島商工労働課長：プロセスについては35 ページにあるが、今日24日に素案の確認ということで議論をお願いしている。そのあとパブリックコメントを1 か月ほど行って、市民の意見との協議会などで出た意見などを踏まえて、3月

に計画書の最終案として形を整えてそれを確認していただき、計画書として市長の方へ協議会として答申いただくという流れになっている。そのあと来年度の5月に国土交通省に申請をして、早ければ年度内に登録に持っていきたいと考えている。今日ここに示しているのは、これまでの協議会や勉強会で出た意見に基づいてまとめただけのもと考えているので、ここで議論を通過してしまっても、これで計画案になるわけではないとご理解いただきたい。

- ・ 小篠会長：28 ページの絵については、ニュースレターに出ている6回目の勉強会で描いた絵を並べて、その下に意見が出たものを集約して描くという絵になるがご意見いかがでしょうかというように聞いて、それを素案としてパブリックコメントに出すというプロセスの方が、圧倒的に皆さん方の懸念していることについてはクリアになると思う。素案をきっちり決めてから意見を求めても全然理解されない。やはりプロセスを大事にして見せなければいけないと思う。そういうふうを描いたものをまずは勉強会の方に出した方がよっぽど理解が進むと思う。
- ・ 川島商工労働課長：ここでいただいたご意見に基づいて、パブリックコメントでの絵の提示の仕方、勉強会での計画の考え方の提示の仕方を整理したいと事務局としては考えている。
- ・ 小篠会長：29 ページの整備の実現方策のところ、いわゆる行政計画に位置付けて江別市も取り組んでいくということが書いてあるが、これは裏が取れているのか。江別市は本当にこの整備に対して予算をかけると決めているのか。江別市の整備の方針が明確ならば、組織としてもきちんと作らなくてはならないという話になっていくと思うが、そのところを協議会としては確認したい。
- ・ 川島商工労働課長：市としても、このかわまちづくり協議会を設置して、皆さんに議論していただいた計画に基づいてこの事業を進めているという覚悟はあると理解いただければと思う。
- ・ 小篠会長：協議会としては、行政としてのバックアップ体制を盤石にしていだきたい。計画の確度が上がっていくので、そういう段階できちんとした予算の裏付けや企業の位置、あるいは組織建てを含めて決めていくべきところは決めてもらいたいということは、協議会としてはひとこと言っておきたい。

(5) かわまちづくり計画に関する今後の予定について（説明：事務局 川島商工労働課長）

(6) かわまちづくり協議会について（説明：事務局 川島商工労働課長）

- ・ 内田委員：37 ページに令和4年度以降の(1)(2)でハード整備の詳細、ソフト施策の詳細とあるが、この点については、35 ページの第6回協議会のところで、かわまちづくり計画書最終案の確認とあって、令和3年度で決まったもの

が令和4年度には申請されるので、ハード整備の詳細等については、もう令和3年度で決まっているのではないかと。もう一点は旧来の委員のことなのだが、私は地元の連合自治体の代表という形で参加させていただいているが、去年の7月に新体制になって、今現在時点では連合自治体の会長ではなくて副会長で、会長は別にいらっしゃるの、その方と今期以降は交代することになっているのでお願いします。

- ・ 川島商工労働課長：計画の中で、ハードもソフトも色々と意見をいただいている、詳細というのは今回決まってくるというのはあるが、これからも地元なり市民の方とやり取りしながら色々と決めていかなければいけない部分が要素としてあると事務局としては認識しているので、より詳細に具体的な動きとして詰めていく議論をしていくという意味で目標にしている。実際のところ勉強会での議論が中心になっているが、この勉強会というのはあくまでも協議会が設置したワーキンググループとしての位置づけになるので、勉強会を継続するとすれば、いままでの協議会のような組織があって、審議を継続していくという考え方があると事務局としては考えているので、今後そこをまとめていく組織があって、それがそのまま計画なり現地の運営組織のマネジメント自体を行っていくようになれば、非常に一つの形として理想的だと思う。内田委員が言われたように、この協議会として3月で任期を終えるということと議論をするのであれば、計画としてはそこで役割としては終わりというのは、基本的な考え方としてはその方向になると思うが、事務局としてはそこから更に計画にあたっている要素を磨いていく、市民と議論しながらより具体的にしていくというところで議論が必要だと考えているので、そのようにご理解いただければと思う。
- ・ 内田委員：この組織が継続していくことについては、それがいいと思う。
- ・ 小篠会長：基本的には協議会はやっぱり必要であると。勉強会を進めていくために、いまの建て付け上、勉強会は協議会のワーキンググループなので、その協議会という組織がないと勉強会は位置づけられないということもあるし、具体的な考え方について、勉強会で出てきた意見を吸い上げつつ協議会で決定していくというプロセスが必要なのではないかということですね。
- ・ 内田委員：協議会の下に勉強会があるというのはずっとその認識だし、それが当然だと思っているが、前回の勉強会の時に、協議会と勉強会は同等なんだと言っていた方がいたので、組織そのものの配置図というかそういうところをきちんと示しておく必要があるのかなと感じた。
- ・ 小篠会長：人が増えていくと、きちんと情報の伝達が出来ていないということもあるだろうから、いろんな解釈をしてしまうことがあるのではないかと心配している。そのところは情報をきちんと伝える必要がある。

- 町村委員：この4月以降も別な形の組織が必要だと思う。おそらく管理運営体制のマネジメント組織づくりというのが協議会の大きなテーマの一つになると思う。新しく出来る協議会がいつまで続くのかということが気になっていて、新しいマネジメント組織の体制が出来上がって動き始めた時点で、この協議会というのは役目を終えるのかどうなのか、あるいはまた新たな組織が必要とされるような段階なのか、設置するからにはやはりここまでの役割であるという決め事が必要なのではないかと思う。いつまでの期間なのか、あるいは何を成し遂げたら終える役割なのかということ。
- 林委員：37ページは、今は令和4年度以降でひとまとまりだが、もう一段下に運営組織が立ち上がった以降のことがあると思う。左側の下にかわまちづくり協議会の緑の枠があるが、これはもっと軽いはずで、実質には運営組織がやっていくので、方向性の確認や舵取り役をかわまちづくり協議会がやるといような見方が出来るが、右側を見ると今後のまちづくり協議会とされた上で、その内容が川の整備の詳細等かなり重たくなっているの、このギャップに違和感がある。令和4年度以降と書いてあるところは、あくまで立ち上げまでの検討組織だと思うので、それをしっかりわかるように書いておいてもいいと思う。運営組織が立ち上がるまでは、まちづくりの具体的な施策の検討及び運営組織のマネジメントという書き方も少しわかりづらいので、かわまちづくりの具体的な施策及びマネジメント体制の検討ぐらいまでにしておくと、それをもって新しい組織が立ち上がったならこの協議会は役割を終えたことになると思う。それまではしっかり議論して、次の協議会はどういう役割を果たすのかということも含めて、マネジメント体制を検討していくということなのかと思う。運営組織立ち上げ以降のかわまちづくり協議会の役割というのは、まだ整理する必要があると思う。個人的な見解としては、具体的なことを考えるよりは大きな方向感を確認するというような、共有を確認するというような協議会になるのかなと思う。そこに意思決定という機能を置か置かないかというのは、その前段階のマネジメント体制の検討のところでもしっかり皆で検討していけばいいと思う。そもそもかわまちづくり協議会が継続することについては賛成です。
- 小篠会長：37ページを3段にして、もうひとつ下に矢印と枠があって、何をするためにいつまでというように話をそこに入れた方がいいということですね。
- 鴻野委員：かわまちづくり協議会の今後の在り方として、3月までと新年度以降の在り方というのが変わっていくことは、継続的に必要だと思う。29ページの整備の実現方策で整備工程が示されていて、この中で進めていくことになると思うが、こういう時にかわまちづくり協議会の方向性などを議論する

場面があってもいいのではないかと感じた。

- ・ 小篠会長：少なくとも整備が進行している間は、協議会の役割はあるだろうということですね。その間に、管理運営組織が立ち上がったとしても、まだ必要なのだという意見ですね。
- ・ 川島商工労働課長：来年度以降も続けていくという方向は、皆さんに同意いただいたと思う。各委員の意見などを参考にしながら、来年度のかわまちづくり協議会についても一度組み立てをして、出来れば先に議論をしていただいて、その位置づけといつまでに何をどうやるかということは、協議会だけではなくて運営組織の議論をしていく中で出てくると我々としても考えている。委員の皆さんがどう考えているのかということをお聞かせいただいたので、そこを踏まえながら来年度の協議会の議題を更に練って出していきたいと思う。
- ・ 小篠会長：先程のかわまちづくり計画書を勉強会でどのように見せるかというところで、29 ページの整備工程は、ロングスパンで見た時のハードとソフトの両方を盛り込んだ工程表が作れるといいと思う。

3. その他

- ・ 川島商工労働課長：このあと勉強会やパブリックコメントを通じて、素案に案を重ねる部分が出てくる。それについて皆さんに確認をしていただくプロセスがあるのだが、この間ずいぶんまた感染症の状況が悪くなってきているし、パブリックコメントの結果を反映するのに時間がかかるのと、年度内にこの協議会の開催のタイミングがうまくとれるか難しいところがあって、確認プロセスを取らせていただくか、あるいは皆さんに書面で送らせて確認いただいた上で、変更点については開発局と事務局である程度確認をして、一旦申請させていただくことになる。それからもう一点、プロセスとして計画書を市長に答申するが、協議会に入っていたかと思っているので、4月になってしまった場合には任期が一旦終わっているが、そこに出席をお願いすることになるかもしれないので、お含みおきいただきたいと思う。
- ・ 小篠会長：なるべく最後の協議会是对面でやったほうがいいと思う。
- ・ 川島商工労働課長：状況が落ち着いていけば、我々としても基本的に対面でやりたいと考えている。

4. 閉会

以上

江別市かわまちづくり勉強会

江別市

勉強会の実施状況

No.	開催日時	概要
第1回	日時:令和3年1月19日(火) 18:00～20:00 場所:江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり協議会と勉強会について ・江別市街築堤の整備について ・かわまちづくり支援制度について ・意見交換
第2回	日時:令和3年3月23日(火) 18:00～20:00 場所:江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・前回勉強会の振り返り ・かわまちづくり先行事例の紹介 ・意見交換をしながらのドローイング ・今後の勉強会の進め方について
<p>※当初予定していた第3回勉強会の代替で、勉強会参加希望者に対する個別ヒアリングを実施。 ※上記の個別ヒアリングとは別に、若年層や女性を対象としたヒアリングを実施。</p>		
第3回	日時:令和3年9月28日(火) 18:00～21:00 場所:ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の位置づけ、今後の進め方について ・前回勉強会及び個別ヒアリングの振り返り ・意見交換をしながらのドローイング ・ハード整備の実施区分について
第4回	日時:令和3年10月18日(月) 18:00～21:00 場所:江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について ・前回勉強会の振り返り ・ハード整備内容(案)及びソフト施策内容(案) ・かわまちづくりに関するグループワーク

勉強会の実施状況

No.	開催日時	概要
第5回	日時:令和3年11月16日(火) 18:00～20:30 場所:江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について ・千歳川や旧岡田邸母屋に関する取組状況 ・ハード整備内容(案)、河川占用の概要 ・前回勉強会の振り返り ・かわまちづくりに関するグループワーク
第6回	日時:令和3年12月21日(火) 18:00～20:30 場所:江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・千歳川の堤防について ・かわまちづくり計画について ・かわまちづくりに関するグループワーク
第7回	日時:令和4年1月26日(水) 18:00～20:30 場所:ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・かわまちづくり計画(素案)について ・かわまちづくりに関するグループワーク
第8回	日時:令和4年3月17日(木) 18:00～20:30 場所:ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・パブリックコメント調査結果 ・イベント活動報告 ・かわまちづくりに関する意見交換

第7回勉強会での主な意見

＜これまでの勉強会で話せてよかったこと＞

- ・街づくりの第一歩として、**地域の方々を中心として考える土台**ができた。
- ・**何をしたいか、どんな街にしたいか**、条丁目に住んでいる方々や興味のある方達の話を集約でき、課題点を整理できたのが良かった。
- ・かわまちづくりの情報が不鮮明になっていた印象が整理され、地域の方の参加も増え、**本当に知りたいたい情報が何か見えてきた**。

＜これまでの勉強会でまだ話せていないこと＞

- ・いろいろなアイデアは出たが、**実際に実現できるのか、収支計画も誰がやるのか**などが話せていない。
- ・**実行するのは誰なのか**を詰めていく時期だと思う。

＜今後の勉強会はどのようなやり方がよいか？＞

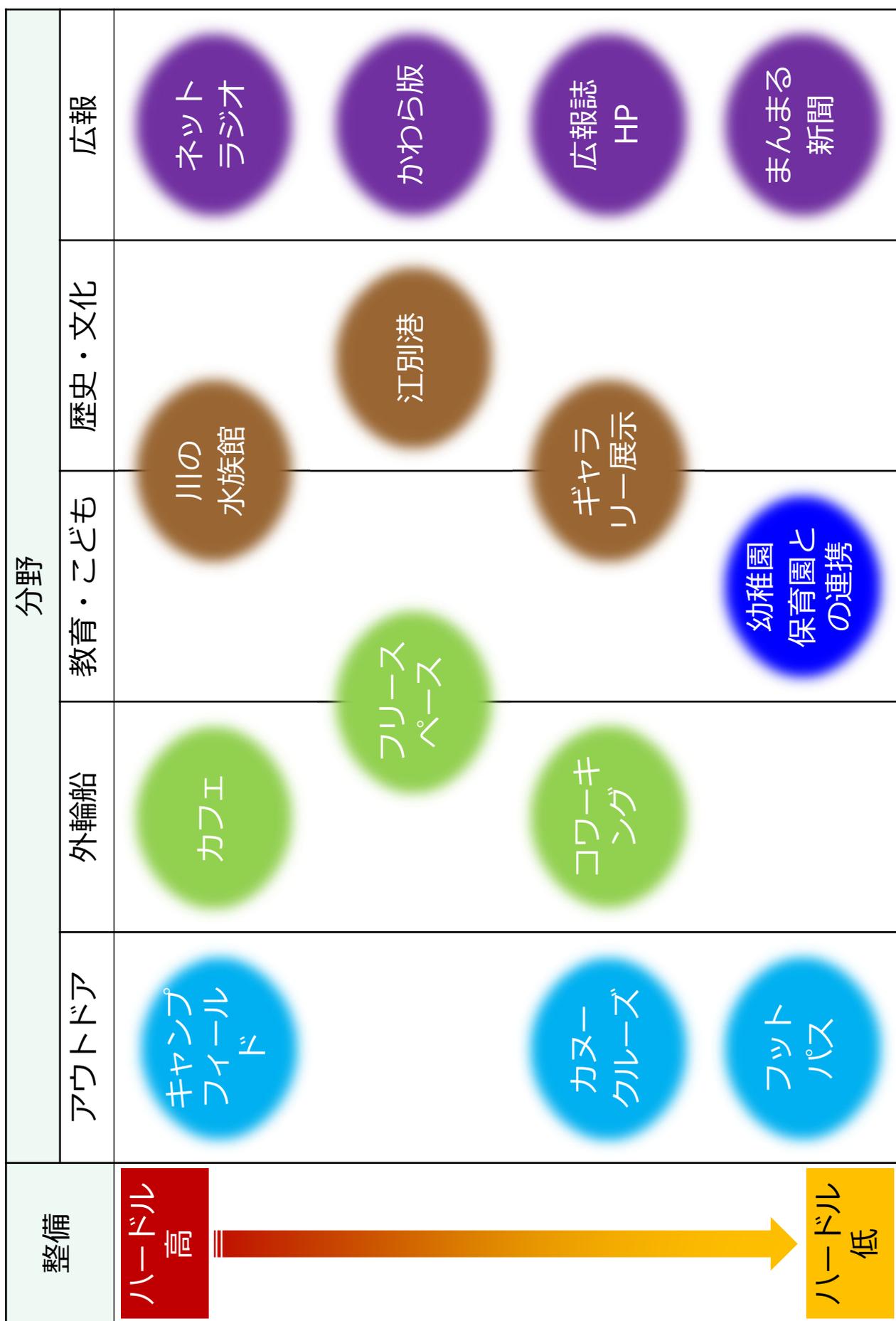
- ・地域でイベント等が行われた際に進んで**交流**することが必要ではないか。
- ・**テーマを絞って深く掘り下げた方が参加しやすい**のではないか。
- ・ゴールがどこか、どこに反映されるのか、**協議会と勉強会の違いがよくわからない**点が不安である。
- ・**財源に関する部分の情報**も公開してもらえるとより参加しやすい。
- ・**テーマを細分化し、興味がある人だけを集める会**がいいのでは。
- ・第1回から参加している方や最近参加されたりいるんな方があるので、**情報量の共有や同じ方向を向いていけるような進め方**が今後必要。

第8回勉強会での主な意見

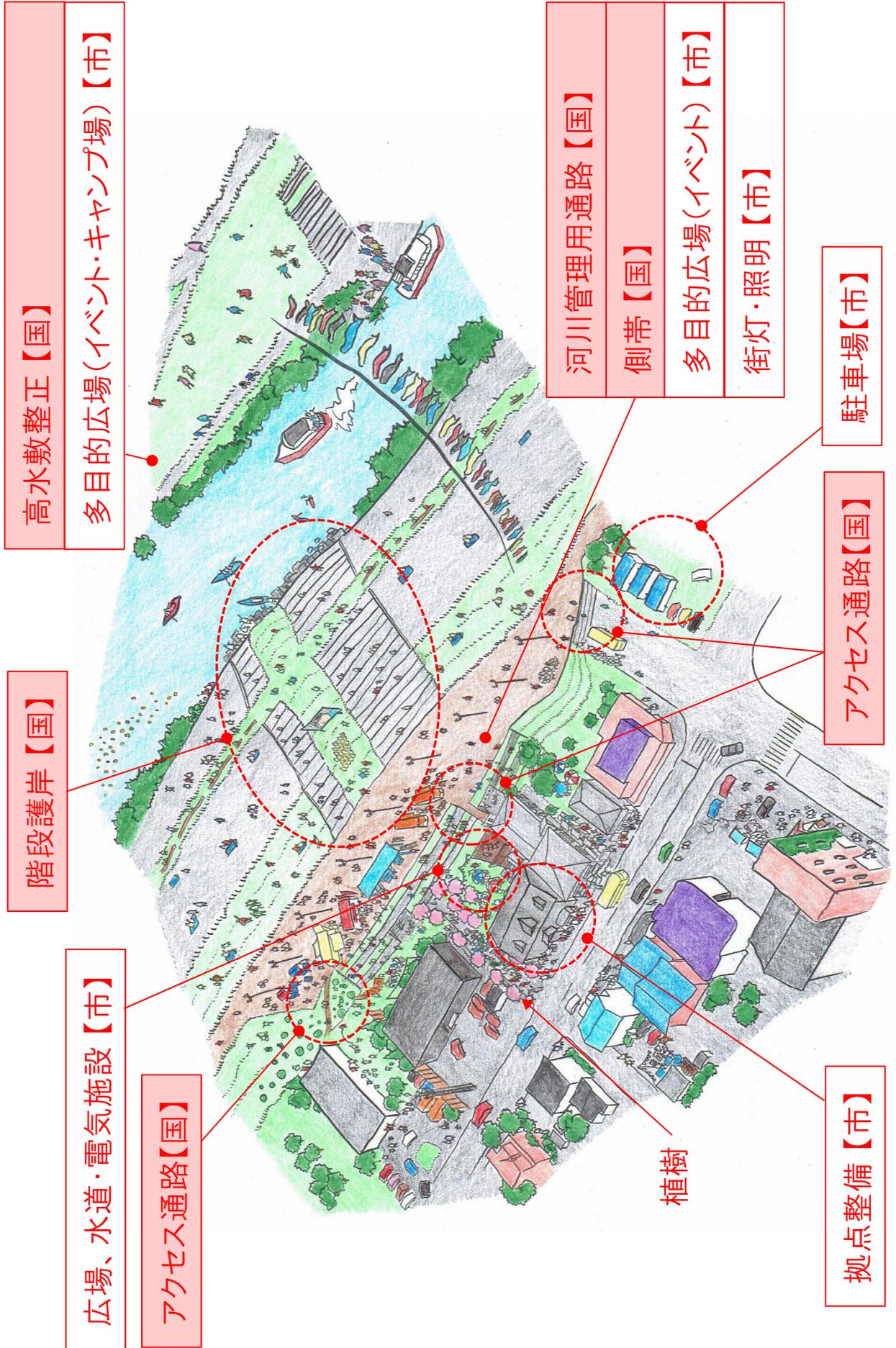
＜今後の勉強会で「いつ何をやる？」「興味あること」＞

- ・勉強会でなくともよいので、自分の話を聞いてくれる場所がないと思っている人たちの声を聞いてあげる場所があればよいと思う。
- ・江別市内に4大学あるが、エキテラ2022に学生が関わることでまちが変わってくるし、学生には4年間の江別の記憶を持って次のステージに進んでほしい
- ・エキテラ2022に関わった人たちと一緒にやっていくのももちろんだが、今回関わらなかった人たちと繋がるイベントをやっていただけらと思う。
- ・江別市内の他の地区の人は条丁目地区のことを意識していないと思うので、外の人たちも巻き込んだ取り組みをしていく必要があると思う。
- ・条丁目地区に住んでいて、先達が生きた証が今に残る味のあるまちが興味深く感じる。
- ・他地区のイベントに条丁目地区のPRブースを出すのもよいと思う。
- ・適度に外からの風を受け止めていくことが条丁目地区の新陳代謝に繋がる。
- ・勉強会も終わる勇気が必要で、また作り上げればよいと思うので、無理して続ける必要はないと思う。
- ・勉強会で分科会を設けるのであれば、子どもを巻き込んだ現実的な取り組みを議論していくのがよいと思う。
- ・かわまちづくりをどのように進めていくのかを具体的に議論していくのも重要だが、何をやるのかという部分が一番重要だと思う。
- ・活動の自走化を意識した視点を持つ必要がある。

これまでの意見を踏まえた取組イメージ

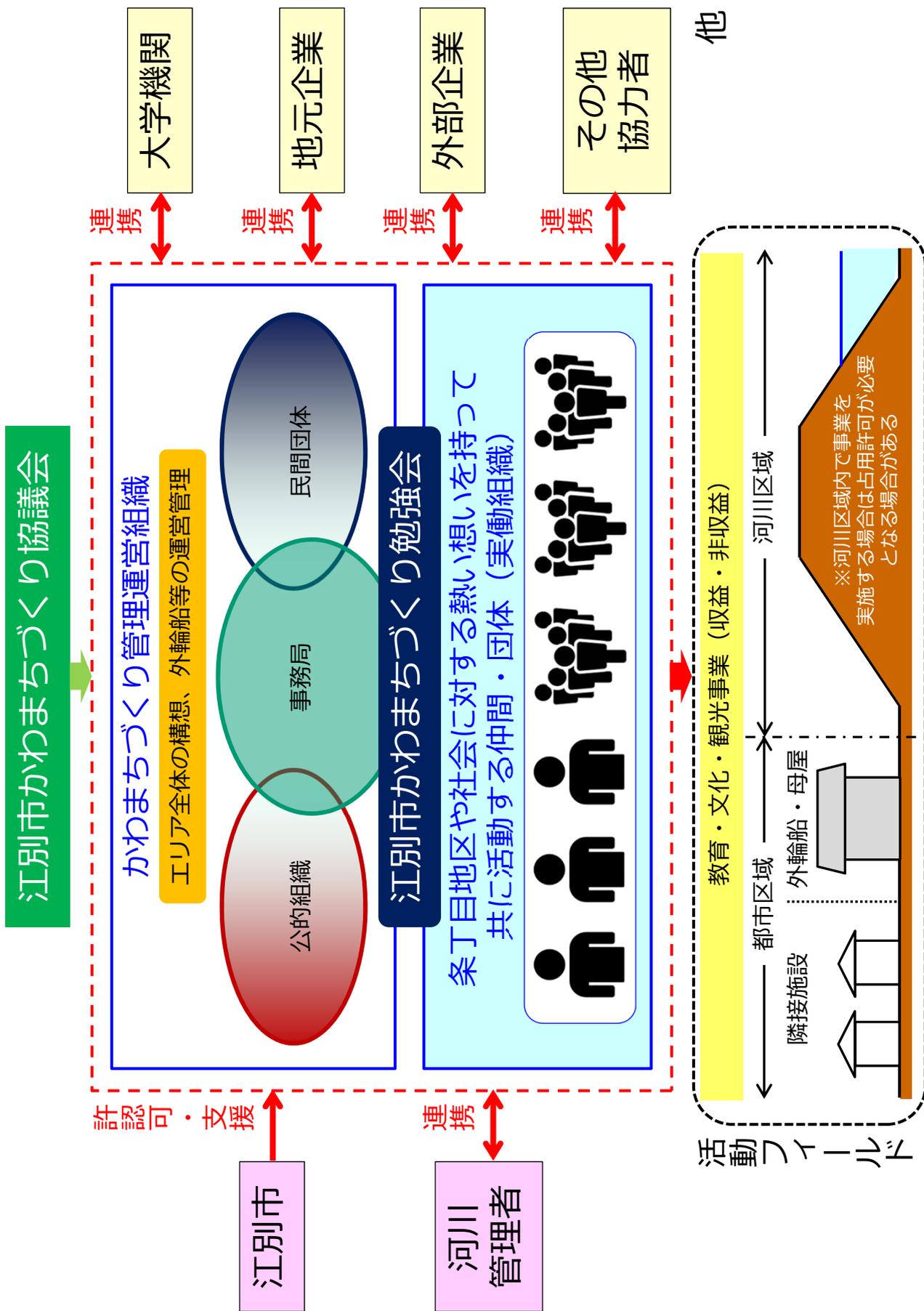


ハード整備内容 (案)

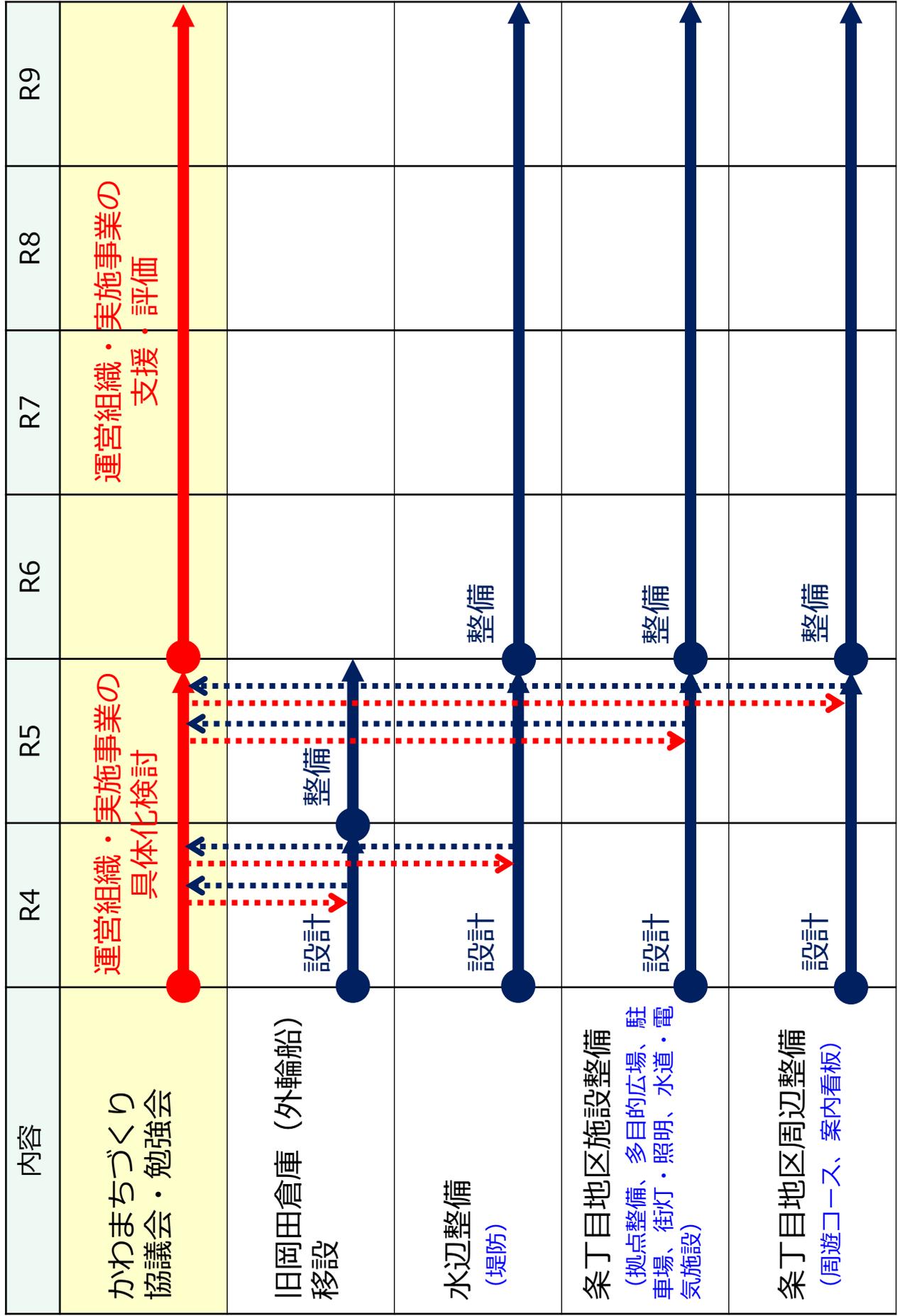


※赤地は河川管理者、白地は自治体・推進主体の整備区分

推進・維持管理体制（案）



長期的なロードマップ (案)



「江別市かわまちづくり計画(案)」に対する市民意見公募の結果と市の考え方

令和4年4月

江別市経済部商工労働課

■意見の募集結果

募集期間	令和4年2月15日～令和4年3月14日
提出者数	5人
提出件数	9件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

※特記事項

パブリックコメントの内容については、提出者の意見をできるだけ正確に表すため、人物を特定できるような固有名称やご意見以外の記述を除き、可能な限り原文のとおり掲載しております。

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
1	<p>いうまでもなく、江別市は夕張川と千歳川が一級河川石狩川と合流する自治体です。「江」が「別れる」という自治体名からも明らかです。自治体がはたすべき役割として、住民の方がそうしたことの認識が備わっているかを確認することも重要です。たとえば合流地点に近い江別地区の住民の方であれば、川は身近な存在かもしれません。しかし、野幌地区や大麻地区の住民で、とりわけ住み始めてまだ間もない方というのは、江別市は単なる札幌のベッドタウンとしか思っていないかもしれません。市民全体と自治体とを結びつける試みがなされることを期待しています。</p>	<p>市では、誰もが参加可能で、かわまちづくりについての理解を深めていただくことや市民などから幅広い意見を伺う場として、かわまちづくり勉強会を定期的に開催しております。これまでのかわまちづくり勉強会では、市内の河川の概要や千歳川の堤防整備内容などの説明をいたしました。今後市民全体にかわまちづくりを知っていただけるよう取り組みを進めてまいります。</p>	B
2	<p>昨年江別に36年ぶりに戻って来て、条丁目の現状が気になり途中から入りました。</p> <p>その時に条丁目の現状を知りたいので世帯数や人口に店舗のことを知りたくて尋ねたのですが、「かわまちづくり勉強会」には直接関係ないというように教えてもらえなかったのは残念でした。それでも参加したのですが、やはりこの事業の目的は、岡田倉庫のある会社通りや千歳川だけの話だけではなく、条丁目全体にかかわる勉強会であると理解しました。ところが市は観光ありきの発想で、条丁目の現状とか将来構想について何も考えていないかのように見えました。年配の参加者は、衰退した条丁目を何とかしたいとの思いがあって参加しているようなのに行政側の思惑は、違っているようです。</p> <p>「定住と交流のまちづくり」ということから考える過疎の町がありますが、江別の場合は、人口減少で悩んでいる地域と異なります。むしろコンバクトシティにふさわしい地区だと考えています。条丁目の中に店舗がなくなつた理由を考え、現在住んでいる人たちがこれから定住する人たちが、暮らしやすい街づくりを考慮した構想をはかってもらいたいです。国の補助金をあてにした事業構想ではなく、条丁目をどうするかを江別市独自で考えそれに該当する補助金を探し出してみることが必要なのではないのでしょうか。</p> <p>最後に、かわまちづくり勉強会と銘打っていたので、条丁目を含んだ江別の自然環境や歴史風土について学ぶことができるのではないかと期待していたのですがね。残念です。</p>	<p>江別市かわまちづくり計画(案)では、かわまちづくり協議会とかわまちづくり勉強会での議論を踏まえ、水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することで、地域に愛され、観光客等の外部の人間にとっても魅力的なまちを目指すことを基本方針としております。</p> <p>ご意見のとおり、市としても江別の自然環境や歴史風土など、江別の特色を踏まえて、かわまちづくりを進めてまいりたいと考えております。今後、かわまちづくり勉強会などで、江別の現状や先行事例の紹介など、かわまちづくりについての理解を深めていただく取り組みを行ってまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
3	<p>以前から「江別市かわまちづくり計画」について目にしておりましてが、新聞や広報誌などで計画があることくらいしか知りませんでした。今回パブリックコメント募集ということで、以前から興味があったのでご意見申し上げます。</p> <p>私は趣味で「カヤック」をやっています。特にカヤックで川を下る「ダウンリバー」をメインに行っています。近郊であれば千歳川(第一ウサクマイ橋～千歳スポーツセンター)ですが、札幌・江別近郊ではなかなかダウンリバーカヤックを楽しめるスポットが少ないように感じています。川から見る景色は普段見る景色とは全く違って見えます。そのため気軽に川下りを楽しむことができる「カヌーポイント」を江別市内を流れる河川で整備してくれることを切に望みます。またダウンリバーカヤックには「回船作業」が必要となるためスタート地点とゴール地点を陸路で結ぶ公共交通機関(バス路線)の整備なども併せて行って頂けると多くの方が川下りを楽しめると思っています。</p> <p>残念ながら私は4月で江別市民ではなくなりますが、川下り愛好家が集まる場所に近い自治体に引越します。川下りを色々楽しんで江別市の「かわまちづくり計画」の参考となる知見を身に付けてきたいと思えますので、今後江別市でもダウンリバーカヤックなどが楽しめる環境の整備をご検討頂けると幸いです。</p>	<p>これまでのかわまちづくり勉強会での議論においても、ソフト施策としてカヌーやクルージングの実施についての意見が出されております。ご意見を参考とさせていただき、千歳川の水辺空間を活用したイベント・アクティビティプランの検討を進めてまいります。</p>	C
4	<p>他の歴史的建造物の保存・活用について「当時の隆盛を物語る外輪船(旧岡田倉庫)等の歴史的建造物が多く残っています」(「⑤市の特色」とあるが、実際のところ条丁目地区で歴史的建造物といえる建物は、二桁に満たなくなっている中で、近年、旧岡田倉庫と同じく、千歳川堤防整備予定地内に所在する舟運に関する歴史的建造物が次々に取り壊された。</p> <p>「歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備」(「4. 整備の必要・有効性」)するためには、一つの建物にとどまらず「群」として歴史的建造物を残していくことが必要と考えますが、これらの建物について、保存・活用にに向けた検討は行われたのか。</p>	<p>千歳川の堤防整備につきましては、地域住民の生命、財産、歴史的建造物を含む街並みを水害から守るため、必要な整備であると考えております。今回の堤防整備に併せたかわまちづくりでは、外輪船(旧岡田倉庫)を河川空間の利活用拠点と位置付け、歴史的景観を活かした水辺の整備及びまちづくりを進めることとしておりますことから、歴史的建造物の保存・活用についても、引き続き検討してまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
5	<p>旧岡田倉庫の移設先について「かわまちづくり」の核となる歴史的建造物が旧岡田倉庫である。この建物は築堤整備工事に伴って移設されることになっているが、肝心の移設先については計画案に全く触れられていない。そこを具体的に示したうえで計画案を提示すべきだと思いが、「江別市かわまちづくり協議会」に提示された資料によれば、隣接する住宅を取り壊した跡地への移転が検討されている。</p> <p>しかし、その住宅も大正年間建築の歴史的建造物であり、とくに旧岡田家住宅側に残っている石積み防壁と卯建は道内では非常に珍しく貴重なものである。一つの歴史的建造物を残すために、別の歴史的建造物を壊すというのは本末転倒と思えるが、何か対策は考えられているのか。</p>	<p>旧岡田倉庫の移設先については、千歳川とのつながりを考え、現在地周辺の土地に移設することが望ましいとのかかわまちづくり協議会での協議結果を踏まえ、地権者との協議を経て決定いたしました。</p> <p>また、かわまちづくり協議会での協議においては、旧岡田倉庫を十分活用するために、旧岡田邸の保存に向けた検討及び旧岡田邸と一体とした利活用方法の検討を行うことが必要とされており、移設先地内での旧岡田倉庫の配置等を考慮すると、移設先地内に所在する建物の解体は免れない状況ですが、歴史的景観を活かした水辺の整備及びかわまちづくりを進めるため、歴史的建造物の保存・活用についても、引き続き検討してまいります。</p>	C
6	<p>旧岡田倉庫の文化財指定と原形保存について</p> <p>市は、旧岡田倉庫は他の歴史的建造物とは異なり、市指定文化財になっっている特別な建物だから扱いも異なるという認識かもしれない。であれば、移設にあたっては、文化財保護の原則に基づいた対応がなされるべきである。</p> <p>文化財保護の上で最も重視されなければならないことは「原形の保存」である。したがって、建物を文化財に指定するということは、その建物を可能な限り創建当時に近い状態で残すということではなければならない。</p> <p>旧岡田倉庫はアーススペース外輪船として活用する際に、内外装の一部に手を加えている。指定の際には、種々の理由で難しかったとしても、改修や移築工事を行う際には、あらためて専門的な調査を行ったうえで、原形に復するための対応が図られてしかるべきと考えられる。</p>	<p>かわまちづくり計画(案)では、旧岡田倉庫を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置付け、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信することを目指しております。</p> <p>旧岡田倉庫の移設先については、旧岡田邸との関係及び歴史的建造物の価値は保たれるよう検討しており、今後は、かわまちづくりの様々なアクティビティにも活用されるよう検討してまいります。また、「原形の保存」につきましても配慮して検討してまいります。</p>	C

No.	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
9	<p>既存の組織活動への敬意と協調について 今回の「江別市かわまちづくり計画書(案)」の中心になっている「アトスペース外輪船」は、北海道内に残された古い建物を整備し、舞台芸術をはじめとする様々な文化活動の創造・発表の場として活用することを目的に北海道が推進した「地域創造アトリエ」事業の一環として北海道及び江別市が旧岡田倉庫及び隣接する旧岡田邸の平屋和室を改修し、「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」が平成17年(2005年)から運営してきた。</p> <p>同様に「地域創造アトリエ」事業により整備された施設は他に9か所存在したが、現在も活動を続けている施設は札幌・江別のほか数か所となり、その意味では江別のアトスペース外輪船は大変健闘しているといえる。</p> <p>運営管理の組織体である「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」は設立から17年が経過し、会員もその時間分高齡化している点は「江別市かわまちづくり協議会」での指摘どおり事実ではあるが、高齡化自体が問題点とも受け取れる「江別市かわまちづくり協議会」の議論内容はやや敬意に欠けると思われる。</p> <p>さらに問題と思われるのは「江別市かわまちづくり協議会」または江別市経済部が「江別市かわまちづくり計画書(案)」の中心になっている「アトスペース外輪船」を管理運営する「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」に対して今日に至るまで公式に何ら状況説明も経緯説明も相談も何も行っていない現実はどういうことなのだろうか？</p> <p>まるで、「江別市が所有する施設なのだからどのように使おうが所有者の勝手！」「相談の必要などない！！」と言わんがばかりの態度だ！</p> <p>このような状態では、「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」としては外野から聞こえてくる様々な情報・噂に振り回されるばかりで「協議会」の会員に対して「協議会」の正確な見解を説明できない宙ぶらりんの状況にしまっている。全く気の毒な状況だ。このことに関して、江別市は何ら敬意と協調を持つとは考えていないのだろうか？</p> <p>新しいことを始めることはまことに結構であるが、今まで曲がりなりにも活動を続けてきた組織に対し経緯とか尊重といった礼儀は必要なことであると考える。</p> <p>さらに、今までの活動から得られたノウハウを今後につなげていくためにも既存の組織への協調・協力の精神は必要ではないだろうか？</p>	<p>かわまちづくり計画(案)では、旧岡田倉庫を条丁目地区・大川通地区における地域観光・まちづくりの拠点に位置付け、地域の歴史・文化・観光等に関する情報を発信することを目指しております。また、旧岡田倉庫の利活用については、現在かわまちづくり協議会及びかわまちづくり勉強会にて検討、議論を継続しております。</p> <p>ご意見のとおり、これまで旧岡田倉庫の運営を担っていただいた旧岡田倉庫活用民間運営協議会をはじめ、地域の様々な組織がその活動から得られたノウハウはかわまちづくりを運営していく上で非常に重要なものと認識しております。</p> <p>かわまちづくりの運営体制など具体的な方策は現在議論、検討を重ねているところでございますが、かわまちづくりを進めるにあたっては、既存の組織との協調・協力を努めてまいります。</p>	C

江別市かわまちづくり

計画書（案）

令和 4 年 3 月

江別市

市町村及び河川の概要

1. 市町村等の概要	
①都道府県名	北海道
②市区町村名	江別市
③人口	119,718人(令和3年11月末現在)
④面積	187.38km ²
⑤市の特色	<p>江別市は、石狩平野の中央に位置し、一般的に平坦な地形で豊かな自然環境に恵まれ、札幌市、北広島市、岩見沢市、当別町、南幌町、新篠津村と隣接しており、道央圏で札幌市に次ぐ規模の都市となっています。</p> <p>昭和40年代より宅地造成が進んだ江別市は、5つのJR駅を中心に市街地が形成されており、交通アクセスの良さなどが評価され、札幌市への通勤・通学圏内で最も人口が増加しました。近年は、商業施設や飲食店の進出が目立ち、自然と都市機能が調和したまちとして発展を続けています。</p> <p>江別の語源は、アイヌ語の「ユベオツ」(サメのいる川)または「イブツ」(大事な場所への入口)とされ、明治11年の屯田兵の入植以降、千歳川に面した江別港と月形町を往来する外輪船により石狩川の舟運の中心として栄え、当時の隆盛を物語る外輪船(旧岡田倉庫)等の歴史的建造物が多く残っています。また、江別市はレンガの一大産地となっており、「江別のれんが」が平成16年10月に北海道遺産として認定されています。</p> <p>江別市にまたがり広大な面積を持つ野幌森林公園は、昭和43年に北海道百年を記念して道立自然公園に指定されました。公園の大部分を国有林が占め、昭和の森自然休養林や鳥獣保護区に指定されています。公園内には、総延長40kmほどの自然遊歩道、休憩施設、5つの池等があり、市民に親しまれています。</p> <p>江別市内には官民の大規模研究施設が立地し、4大学・1短大があります。近年、研究施設や大学が市内生産者・製造業と連携し地域ブランド創りへの挑戦も盛んになっています。また、研究施設・大学とも市民向けのイベント・セミナーなどを開催するなど、地域に開かれた取組みも積極的です。</p> <p>江別市の産業は第三次産業が中心ですが、農業は大消費地の札幌市に隣接していることもあり、稲作、畑作、酪農等多岐にわたっています。初冬まき栽培で有名な幻の小麦「ハルユタカ」、首都圏で有名な乳製品の自家生産企業、ハム・ソーセージの製造企業等のほか、シーズンには多くの野菜直売所がオープンします。</p>
	 
	外輪船(旧岡田倉庫)
2. 市内の河川の概要	
①主な河川	<ul style="list-style-type: none"> ・石狩川(一級河川石狩川水系、流域面積14,330km²、流路延長268km) ・千歳川(一級河川石狩川水系、流域面積1,244km²、流路延長108km) ・夕張川(一級河川石狩川水系、流域面積1,417km²、流路延長136km) ・豊平川(一級河川石狩川水系、流域面積902km²、流路延長72.5km) <p>石狩川は、江別市の北部に面し、大雪山系石狩岳の西斜面に源を発して上川盆地、石狩平野を経て432の支川を合わせ日本海に注ぐ一級河川です。</p> <p>千歳川は、我が国を代表するカルデラ湖で国内有数の透明度を誇る支笏湖を源とする、石狩川流域の主要な一次支川です。支笏湖周辺は豊かな自然環境によって支笏洞爺国立公園を構成しています。千歳川は全国有数のサケ遡上河川であり、秋には多くの観光客が訪れます。市街地にある河川管理用道路をはじめとする河川空間は、市民によるイベント空間や散策路等としても利用されています。</p> <p>また、夕張川は江別市の東部、豊平川は江別市の西部に面する、石狩川流域の主要な一次支川です。</p>

②河川と江別市や民間事業者との関わり

石狩川・千歳川合流点の江別河川防災ステーションで開催される「こいのぼりフェスティバル」やNPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」等、河川管理者・自治体・事業者が連携した多くのイベントが開催されており、千歳川は周辺地域の社会・文化と深い結びつきを持っています。

また、生活の基礎や歴史、文化や風土を形成してきた千歳川の恵みを活かしつつ、自然とのふれあい、釣り等の趣味、イベント等の河川利用、環境学習の場等として安全に活用できるよう、地域の活性化に寄与する場の整備に努めています。

■石狩川河川敷緑地（昭和 51 年）

ソフトボール場 2 面、サッカー場 2 面、駐車場 2 箇所が整備された石狩川河川敷の公園緑地であり、地域のスポーツの場として多くの人に利用されています。

市民体育大会、小中学生等の野球大会、江別市内の保育園の運動会等の各種イベントが開催されています。



石狩川河川敷緑地

③これまで実施済みの関連施策

■江別河川防災ステーション（平成 14 年完成）

水防資器材の備蓄、水防活動の拠点基地や災害時の避難場所として活用するための施設として、千歳川合流点付近に計画・整備されました。

平常時における防災研修の場や河川情報の提供、川を題材とした歴史、川の恩恵などの展示をはじめ、防災意識の向上に努めるほか、市民の憩いの場として親しまれる空間づくりを展開しています。



河川防災ステーション

■アートスペース外輪船（平成 17 年 7 月オープン）

歴史的建造物である外輪船（旧岡田倉庫）を、江別の芸術・文化の発信基地となるイベントスペースとしてリニューアルしました。

「旧岡田倉庫活用民間運営協議会」が江別市から借り受けて管理・運営を行っており、演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。



アートスペース外輪船

④市民や民間事業者による河川利活用状況

江別市は、度々石狩川や千歳川の洪水氾濫に見舞われてきた地域ですが、河川整備が進められており、多くの市民が憩いや自然とのふれあい、イベントの場として広く河川空間を利活用しています。

- ・千歳川沿いの河川管理用道路で、散策を楽しむ光景が見られます。
- ・春には「こいのぼりフェスティバル」、夏には「えべつ花火」「石狩川リバーセービング」など、多くのイベントが開催されており、過去にNPO主体で開催された「ミズベのロングマーケット」では、千歳川沿いで多くの市民がコンサート・雑貨販売等を楽しんでいます。
- ・江別河川防災ステーションでは、江別の観光の紹介及び物産の販売を行っており、平成 14 年度～令和 2 年度の平均で年間約 5.8 万人が来場しています。
- ・市民や地元のNPO等と河川管理者が連携しながら、市民参加による清掃活動等の維持管理や小学生を対象とした水生生物の観察会等の環境教育に取り組んでいます。



こいのぼりフェスティバル



えべつ花火



野菜直売所（防災ステーション）

水辺とまちづくりに関する基本方針

江別市では、「えべつ未来づくりビジョン（第6次江別市総合計画）」に基づき、地域資源を活かし江別観光の魅力をさらに高めるとともに、商店街の活性化等を推進し、観光による産業の振興に努めています。地域資源の発掘と活用、観光・イベント情報の発信を行い、江別市のイメージアップ、物産と観光が融合した江別ブランドの確立を図っているところです。

「江別市都市計画マスタープラン 2014」における江別地域のまちづくり構想に基づき、江別駅周辺の歴史性や境界性、良好な河川環境等の特性を活かした地域の魅力向上を目指して、地区核にふさわしい JR 江別駅周辺の再構築による周辺市街地との連鎖的な活性化、重要な地域資源である千歳川と共存した地域づくりを推進しています。

平成 30 年 3 月に「江別市観光振興計画」を策定し、各主体が役割を分担しつつ、観光資源を活かした魅力づくりと観光プロモーション、市民や事業者が実感する観光まちづくりを推進し、「食と農の豊かな実り、れんがと歴史にふれる街」を目指しています。

「江別市景観形成基本計画」（平成 18 年 3 月）では、市民が集う JR 江別駅前や商店街等の条丁目地区で、まちの顔として楽しく活気があり「魅力」ある景観として「江別らしさ」「心地よさ」「活気」のある景観や、千歳川と調和した緑豊かで潤いのある景観を目指した取り組みを行っています。

上記の事業と連携し、江別市かわまちづくり協議会とかかわまちづくり勉強会では、今回の「かわまちづくり」計画を水とまちをつなぐ人の流れや河川空間に賑わいを創出することを目標に位置付けました。具体的には、江別市条丁目地区・大川通地区と千歳川が一体となった水辺空間の活用、条丁目地区内の歴史的建造物の活用、周辺地域との連携、条丁目地区の歴史・文化の発信を推進し、江別港を中心に舟運で栄えた江別市条丁目地区の歴史性を活かした新たな「条丁目スタイル」の観光・まちづくりによる賑わいの創出により、条丁目地区・大川通地区を含む江別市の地域活性化に寄与することを目指します。



「江別市都市計画マスタープラン 2014」における条丁目地区・大川通地区周辺のまちづくり構想

【目標】
地域に愛され、観光客等の外部の人間にとっても魅力的な「かわまち」
(水辺とまちをつなぐ人の流れや河川空間の賑わいの創出)

<誰のために>

- ・条丁目地区の住民
- ・子育て世代
- ・条丁目地区を愛する人
- ・観光客

<どこで>

- ・水辺空間
- ・外輪船及び母屋
- ・条丁目地区
- ・周辺地域

<何をする>

- ・水辺の利活用
- ・歴史的建造物の活用
- ・周辺地域との連携
- ・歴史文化の発信

舟運で栄えた歴史性を活かした新たな“条丁目スタイル”の観光・まちづくり

目指す「かわ・まち」の姿

ソフト施策の個別施策計画書

1. 河川名
石狩川水系千歳川
2. 提案事業の実施範囲
千歳川 江別市条丁目地区・大川通地区
3. 提案事業の概要
千歳川 江別市条丁目地区・大川通地区
<p>【協議会・勉強会の発足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年11月、江別市、学識経験者、地元関係者等からなる「江別市かわまちづくり協議会」を設立し、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法等について検討するとともに、外輪船（旧岡田倉庫）周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議してきました。 ・令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして、「江別市かわまちづくり勉強会」を定期的開催し、条丁目地区・大川通地区の水辺整備や河川空間の利活用推進に向けた意見交換を行いました。 ・今後、民間事業者を加え、事業を遂行する実行組織の発足を支援します。 <p>【既存制度の活用と展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川敷地占用許可準則第22による「都市・地域再生等利用区域」の指定につなげることで、条丁目地区内の事業者・店舗等の河川区域での営利活動を可能とし、観光誘客を図ります。 ・江別市を占有主体として、「江別市かわまちづくり協議会」により利活用の方針を検討しつつ、民間事業者（実行組織）と連携して河川空間の活用を図ります。 <p>【ソフト施策】</p> <p>地域のニーズに沿ったソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域に愛され観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 千歳川の水辺空間を活用した新たなイベントの企画（観光協会、NPO、民間事業者等） <ul style="list-style-type: none"> ・「ミズベのロングマーケット」等のイベントで実施されているコンサート・雑貨販売等に加えて、地域の歴史・文化や市民のニーズを踏まえ、周辺地域やJR江別駅等の拠点施設と連携して、水辺空間を含む広域的な観光誘客に資する新たなイベントの企画を検討していきます。 ①夏の灯籠流し・いかだ下り（地元大学との連携） ②水辺でのやきもの市、キッチンカーによる飲食販売、お茶会、ヨガ体験、演劇（水辺への拡張） ③「アートスペース外輪船」でのコスプレイヤーによる写真撮影会、海外アーティストの展示会（既存イベントの拡張） ④歴史的建造物と融合したプロジェクションマッピング ⑤石狩川・千歳川合流点の高水敷におけるキャンピング（アウトドア事業者との連携）
   
<p>灯籠流し 飲食販売 プロジェクションマッピング キャンピング</p>
<ol style="list-style-type: none"> 2) 冬のイベント・アクティビティプランの設定（観光協会・民間事業者） <ul style="list-style-type: none"> ・冬の水辺空間の利活用に関する地域の潜在的なニーズがあることから、多種多様な冬のアクティビティのプランを設定し、冬期の観光誘客を図ります。 ①河川管理用通路沿いのアイスキャンドル（既存のアイスキャンドル・イルミネーションイベントの水辺への拡張） ②堤防沿いの緩斜面を利用したそり滑り（地元幼稚園・保育園との連携、子育て家庭への周知） ③日常的に利用可能なファットバイク・クロスカントリースキーコースの設定



アイスクャンドル



そり滑り



ファットバイク



クロスカントリースキー

3) 広域観光周遊モデルコースの設定 (江別市)

・大川通地区に位置する江別河川防災ステーションには多くの市民や観光客が来場しており、連携した利活用の推進による相乗効果が期待できることから、様々な志向の人が好みに応じて気軽に利用できるよう、水辺—歴史的建造物 (旧北陸銀行江別支店等)—拠点施設 (JR 江別駅等)—周辺地域 (四季のみち等の遊歩道) をつなぐ多種多様なコース・プランを設定します。

- ①「JR ヘルシーウォーキング」等の既存イベントと融合した観光プラン (観光協会等との連携)
- ②市民が日常的に利用可能な散歩・ジョギング・サイクリングコースの設定



歴史的建造物
(旧北陸銀行江別支店)



拠点施設
(JR 江別駅)



遊歩道 (四季のみち)
(蔦屋書店付近)



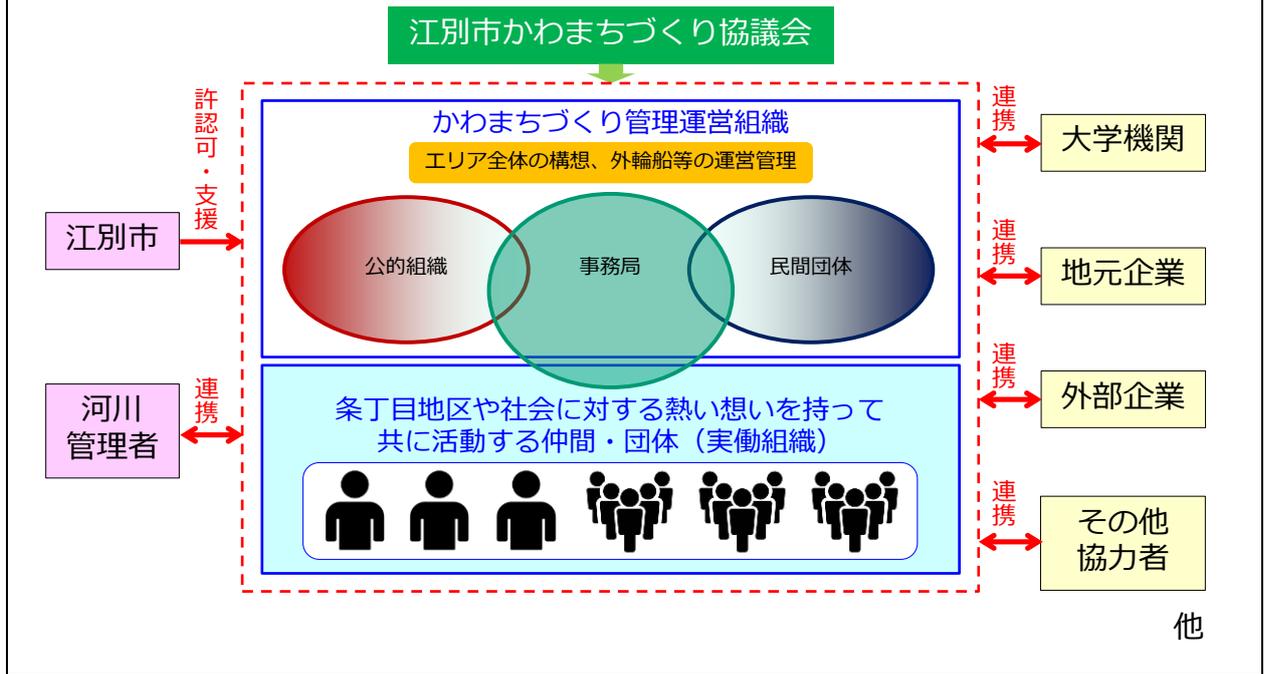
JR ヘルシーウォーキング[®]

(参考)

図：江別市条丁目地区・大川通地区周辺位置図



図：江別市かわまちづくり管理・運営組織の実施体制（案）



4. 整備の必要性、有効性

石狩川と千歳川が合流する当該地区は、明治時代に始まった北海道の開拓において主要な交通手段だった小樽～幌内を結ぶ鉄道（明治 15 年開通）と上流へ向かう舟運の結節点であり、江別港と呼ばれていました。このため明治後半～大正にかけて繁栄し、共同の船着場や旧岡田倉庫を含む倉庫群が建設されました。昭和期においても官公庁、製紙工場、映画館や旅館等により賑わっていましたが、舟運の衰退や幹線道路の移設等により賑わいは落ち着き、現在では、歴史的建造物が数多く点在する地区となり、外輪船（旧岡田倉庫）は演劇・コンサート・講演会等の各種イベントに利用されています。

現在、千歳川では、昭和 56 年に発生した未曾有の洪水を安全に流下させることを目的に治水事業が進められています。当該地区の江別市街築堤は背後に市街地を有する重要な区間ですが、堤防整備に伴い外輪船（旧岡田倉庫）の移設が必要となり、移設後の利活用方法を早急に検討する必要が生じました。一方、江別市は、大都市札幌に近いという地理的要因等から通過型観光が多い状況でしたが、市内の観光資源を生かし道内や近隣市町村からの誘客が重要となっており、歴史性等の特色を生かした土地利用を目標としています。また市民からも、川のある暮らしを望む声が挙がっていました。

そこで今回の堤防整備に併せて、外輪船（旧岡田倉庫）の歴史的景観を活かしつつ水辺とまちを一体的に整備し、当該地区の認知度・知名度、イベントでの利用価値、観光ポテンシャルを向上させることで、交流人口の増加、歴史的経緯を踏まえた水辺の賑わいの創出、水辺を活用したイベントによる市内外からの広域的な観光誘客を図ります。周辺では近年住民の転入や保育施設の開設等も見られはじめており、日常においても周辺施設と一体となった水辺空間を創出しつつ、江別市の観光誘客に併せたまちなか居住を推進することで地域の魅力向上と活性化を図っていきます。

5. 整備の実現方策

【関連事業の整備計画】

- ・江別市では「江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、平成 27 年度から 5 ヶ年計画で観光振興による交流人口の増加と経済活性化を目指しています。具体的な事業として、大学及び学生等との連携事業、学生地域活動補助事業、グリーンツーリズム関連事業（直売所等）、北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区の取り組みを首都圏の企業に PR する広報事業等があります。
- ・令和元年 8 月に設立された「さっぽろ連携中枢都市圏観光協議会」は、札幌市及び近隣の 11 市町村（小樽市、岩見沢市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市、当別町、新篠津村、南幌町、長沼町）が連携し、観光客を増加させ、圏域全体の観光消費を増大させるため、観光振興に関する取組を企画・立案し、ツーリズム連携等の戦略的な共同プロモーション事業等を実施しています。
- ・上記の事業と連携することにより、賑わいのある水辺空間の利活用の推進を図ることができます。
- ・条丁目地区の利活用拠点となる外輪船（旧岡田倉庫）は、千歳川の築堤整備に伴い移設される予定であり、工事に合わせて利便性を確保できるよう、関係機関や河川管理者と調整を進めています。

【整備工程】

整備項目等	実施主体	R4	R5	R6	R7	R8	R9
かわまちづくり協議会・勉強会	江別市	← 運営組織・実施事業の具体化検討 →		← 運営組織・実施事業の支援・評価 →			
旧岡田倉庫（外輪船）移設	江別市	← →					
条丁目地区施設整備	江別市		← →				
周遊コース・市内看板等	江別市		← →				
水辺整備	江別河川事務所		← →				

6. 推進体制

令和 2 年 11 月に江別市、学識経験者、地元関係者の連携の下、江別市街築堤整備に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法を検討し、外輪船（旧岡田倉庫）周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的とした「江別市かわまちづくり協議会」を設立しました。

令和 3 年 1 月から、江別市と河川管理者による「江別市かわまちづくり勉強会」を開催し、より具体的な事業計画の策定と実践に向けた議論・検討等を推進しました。

現時点で、河川占用許可準則第 22 条（都市・再生等利用区域の指定）に基づく営利活動を行う民間事業者の参入が見込まれており、事業を遂行・運営する実行組織の発足を目指します。

7. 有効利用および維持管理

①有効利用に関する計画

- ・地域の観光ポテンシャルを有効活用したソフト施策の実施による魅力向上と地域のブランドイメージ定着を図ることにより、地域や観光客等の外部の人間にとって魅力的な「かわまち」を目指します。
- ・子どもたちが安心して遊び、市民が憩い愛着を持って接することができる河川空間を整備することにより、条丁目地区・大川通地区の地域づくりに寄与します。

②維持管理計画

- ・外輪船（旧岡田倉庫）及び水辺の整備施設の内、河川管理施設等の防災上必要とされる施設機能の維持管理については、河川管理者が行います。
（国：河川管理用道路、護岸等）
- ・非常時（洪水氾濫時及び事後）における河川空間等の管理については、河川管理者が行います。
- ・河川等の占用に伴う占用物に対する日常的な維持管理・清掃等に関しては、江別市、地元関係者、民間事業者等からなる実行組織）及び河川管理者が連携して実施します。
- ・維持管理費用については、官民で分担して永続的に維持管理が可能となるよう、適切なライフサイクルコストを検討していきます。

8. 特徴

当該地区は、石狩川・千歳川（当時は夕張川も）の合流点であり、さらに明治 15 年までに開通した鉄道および江別駅設置により、当時の主要な交通手段である舟運と鉄道の結節点となり、江別港と呼ばれていました。上流からは船で農産物（小豆、大豆、麦、雑穀）や木材を運び、当地区で鉄道へ積み替えて札幌や小樽や本州へ、下流からは生活物資（米、味噌、砂糖、酒、衣服、薬品、石材、鉄）を鉄道で運び、当地区で船に積み替えて石狩川や千歳川（夕張川）の上流へ運んでいました。

これにより、明治 30 年代後半から大正にかけて、雑穀（麦、豆、そば、種、肥料）を扱う商人が増え、共同の船着場や外輪船（旧岡田倉庫）が建設されたほか、明治 35 年には江別駅～千歳川の船着場まで線路が建設されるなど、繁栄しました。

昭和に入ってから、官公庁、王子製紙及びその社宅、3つの映画館や多くの宿、料理店、百貨店、飲食店などが存在し、賑わいを見せていました。しかしながら、地区を通っていた幹線道路の移設や、札幌に近い地区の開発等により、現在は歴史的建造物が建つ比較的落ち着いた地域になっています。

「江別市かわまちづくり」の整備により、既存の歴史的建造物の利活用施設としての機能を充実させ、観光・歴史・文化・まちづくりに関する効果的な情報発信を行うことにより、条丁目地区・大川通地区の認知度・知名度向上、歴史的建造物を中心に「かわ」と「まち」が一体となった賑わいの創出を図ります。



北海道演劇祭



外輪船アート展



えべつ秋の特産味覚まつり



「まちあかり江別」イルミネーション

その他特筆すべき事項

1. 江別市かわまちづくり協議会

令和2年11月以降、「江別市かわまちづくり協議会」を計6回開催しており、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する外輪船（旧岡田倉庫）の利活用方法や「かわまちづくり」計画等に関する協議結果を議事要旨としてとりまとめ、ホームページで公開しています。

「江別市かわまちづくり協議会」開催状況

No.	開催日時	概要
第1回	日時：令和2年11月4日（水） 14:00～16:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の目的と進め方について ・旧岡田倉庫の利活用及び移設先について ・旧岡田倉庫利活用ワーキンググループの設置・開催日について
第2回	日時：令和2年12月21日（月） 14:00～16:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・旧岡田倉庫利活用ワーキンググループ開催報告 ・旧岡田倉庫の施設、活動概要等 ・かわまちづくりの進め方について
第3回	日時：令和3年9月28日（月） ※書面開催	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会での議事内容について ・旧岡田倉庫の移設に係る状況報告 ・かわまちづくりロードマップ（案） ・かわまちづくり勉強会の位置づけ
第4回	日時：令和3年10月25日（月） 14:00～16:00 場所：江別市民会館3F 37号室	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・かわまちづくりの進め方について ・かわまちづくり計画について
第5回	日時：令和4年1月24日（月） 10:00～12:00 場所：江別市民会館 小ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・かわまちづくり計画書の概要 ・かわまちづくり計画書（素案）について
第6回	日時：令和4年3月29日（火） 10:00～12:00 場所：江別市民会館3F 37号室	<ul style="list-style-type: none"> ・前回協議会の振り返り ・かわまちづくり勉強会開催報告 ・パブリックコメント結果報告 ・かわまちづくり計画書について

2. 江別市かわまちづくり勉強会

令和3年1月以降、「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして「江別市かわまちづくり勉強会」を計8回開催しており、開催結果をニュースレターとして整理し市民に周知しています。また、地元から幅広い意見を収集するため、幼稚園・保育園、地元企業・大学を対象とした個別ヒアリングや地元住民との現地視察を実施し、「江別市かわまちづくり勉強会」での議論・検討に反映させています。

「江別市かわまちづくり勉強会」開催状況

No.	開催日時	概要
第1回	日時：令和3年1月19日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり協議会と勉強会について ・江別市街築堤の整備について ・かわまちづくり支援制度について ・意見交換
第2回	日時：令和3年3月23日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・前回勉強会の振り返り ・かわまちづくり先行事例の紹介 ・意見交換をしながらのドローイング ・今後の勉強会の進め方について
第3回	日時：令和3年9月28日（火） 18:00～21:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会の位置づけ、今後の進め方 ・前回勉強会・個別ヒアリングの振り返り ・意見交換をしながらのドローイング ・ハード整備の実施区分について
第4回	日時：令和3年10月18日（月） 18:00～21:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の進め方について ・前回勉強会の振り返り ・ハード整備・ソフト施策内容（案） ・かわまちづくりに関するグループワーク
第5回	日時：令和3年11月16日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・支援制度への申請までの流れ・ ・旧岡田邸母屋の調査状況 ・千歳川流域の治水・利用・環境の取り組み ・ハード整備内容（案）の概要 ・都市・地域再生等利用区域の指定 ・かわまちづくりに関するグループワーク
第6回	日時：令和3年12月21日（火） 18:00～20:00 場所：江別市コミュニティセンター1F 多目的ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・千歳川の堤防について ・かわまちづくり計画について ・かわまちづくりに関するグループワーク
第7回	日時：令和4年1月26日（水） 18:00～20:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・かわまちづくり計画について ・かわまちづくり計画書（素案）について
第8回	日時：令和4年3月17日（木） 18:00～20:00 場所：ZoomによるWeb開催	<ul style="list-style-type: none"> ・勉強会・支援制度への申請までの流れ ・前回勉強会の議事内容等 ・パブリックコメント調査結果 ・イベント活動報告 ・かわまちづくりに関する意見交換

<江別市かわまちづくり協議会ホームページ>



[はじめての方へ](#)
[背景色を変える](#)
白
黒
青
[文字の大きさ](#)
拡大
標準

[検索](#)
[Foreign language](#)
[サイトマップ](#)
[携帯サイト](#)
地図でさがす
カレンダーでさがす
課名でさがす

[トップページ](#) > [組織・課名でさがす](#) > [商工労働課](#) > 江別市かわまちづくり協議会

江別市かわまちづくり協議会

[印刷用ページを表示する](#) 掲載日：2021年9月28日更新

江別市かわまちづくり協議会は、江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する旧岡田倉庫の利活用方法等について検討するとともに、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組について協議することを目的としています。

要綱・委員

- ・[江別市かわまちづくり協議会設置要綱](#) [PDFファイル/62KB]
- ・[江別市かわまちづくり協議会委員名簿（任期：令和2年11月4日～令和4年3月31日）](#) [PDFファイル/27KB]

江別市かわまちづくり協議会会議録（要旨）

令和2年度	第1回（令和2年11月4日） [PDFファイル/153KB]	資料1 [PDFファイル/46KB] 資料2 [PDFファイル/212KB] 資料3 [PDFファイル/9.73MB] （参考資料） ・ 江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）について [PDFファイル/2.49MB] ・ 旧岡田倉庫位置図について（用地ライン入り） [PDFファイル/274KB] ・ 地元自治会等からの要望書 [PDFファイル/2.9MB]
	第2回（令和2年12月21日） [PDFファイル/140KB]	資料1 [PDFファイル/214KB] 資料2 [PDFファイル/4.83MB] ※一部省略 資料3 [PDFファイル/394KB] 資料4 [PDFファイル/78KB]
令和3年度	第1回（令和3年9月28日：書面開催） [PDFファイル/217KB]	議事内容 [PDFファイル/135KB] 資料1 [PDFファイル/188KB]

江別市かわまちづくり勉強会 NEWS LETTER

Vol.07 2022.2.7

第7回勉強会 報告：1/26（水）開催

旧岡田倉庫の利活用と条丁目地区のかわまちづくりに関する協議を行うために設立された「江別市かわまちづくり協議会」のワーキンググループとして Web 勉強会を開催しました。Web 勉強会では、江別市から前回勉強会の振り返り等を行い、その後参加者が4グループに別れて、「これまでの勉強会で話せてよかったこと」「これまでの勉強会でまだ話せていないこと」「今後の勉強会はどのようなやり方がよいか？」というテーマで「グループワーク」を行いました。

新型コロナ禍の非常に厳しい状況にありますが、色々な方々と議論を重ねながら、条丁目地区を元気にしていきたいと思えます。



●グループワークの概要

「これまでの勉強会で話せてよかったこと」「これまでの勉強会でまだ話せていないこと」「今後の勉強会はどのようなやり方がよいか？」をテーマに活発な意見交換が行われ、「どのアイデアが実現可能で誰がやるのかを詰める必要がある」「今後も意見交換の場が必要である」「議論するテーマの細分化が望ましい」「質の高い勉強会とするための進め方を学ぶ必要がある」等の意見が出ました。

江別市かわまちづくり勉強会って何？

千歳川と江別市条丁目地区の歴史や文化、人々のつながりを活かしながら、条丁目地区をより明るく元気するための「かわまちづくり」に関する勉強や意見交換をしています。
条丁目地区の未来を一緒に考えましょう！

次回勉強会は
令和4年3月
開催予定
です！

【事務局】江別市役所商工労働課内

(電話) 011-381-1023 (Eメール) shoko2@city.ebetsu.lg.jp



江別市
Ebetsu City

かわまちづくり計画に関する今後の予定について

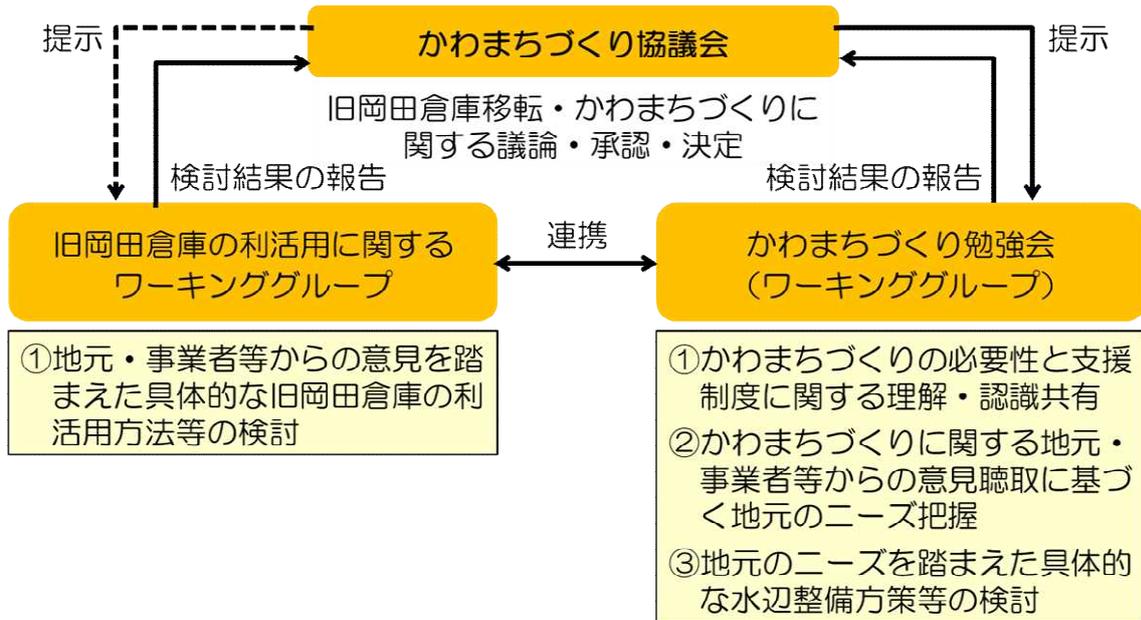
年月	協議会	勉強会
令和4年 1月～	<p>令和3年度第3回協議会 (1月24日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり計画書素案の確認 ・かわまちづくり協議会について <p>パブリックコメント 募集期間 2月15日～3月14日 配布場所 市役所、各公民館等の公共施設、市HP</p> <p>令和3年度第4回協議会 (3月29日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり計画書最終案の確認 ・かわまちづくり協議会について 	<p>第7回勉強会 (1月26日) ※オンライン開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かわまちづくり計画書素案についての説明 ・今後の勉強会に関するグループワーク <p>第8回勉強会 (3月17日) ※オンライン開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パブリックコメントの結果 ・今後の勉強会に関する雑談
令和4年 4月～	<p>かわまちづくり計画書の市長への答申 (4月18日)</p> <p>かわまちづくり計画書申請 (5月予定)</p> <p>かわまちづくり計画</p>	<p>かわまちづくり勉強会 (4月以降～) ※必要に応じて1～2か月に1回程度開催</p> <p>ハード整備・ソフト施策・運営体制の具体的な内容について継続的な検討・議論を実施</p>

かわまちづくり協議会について

1 設置目的

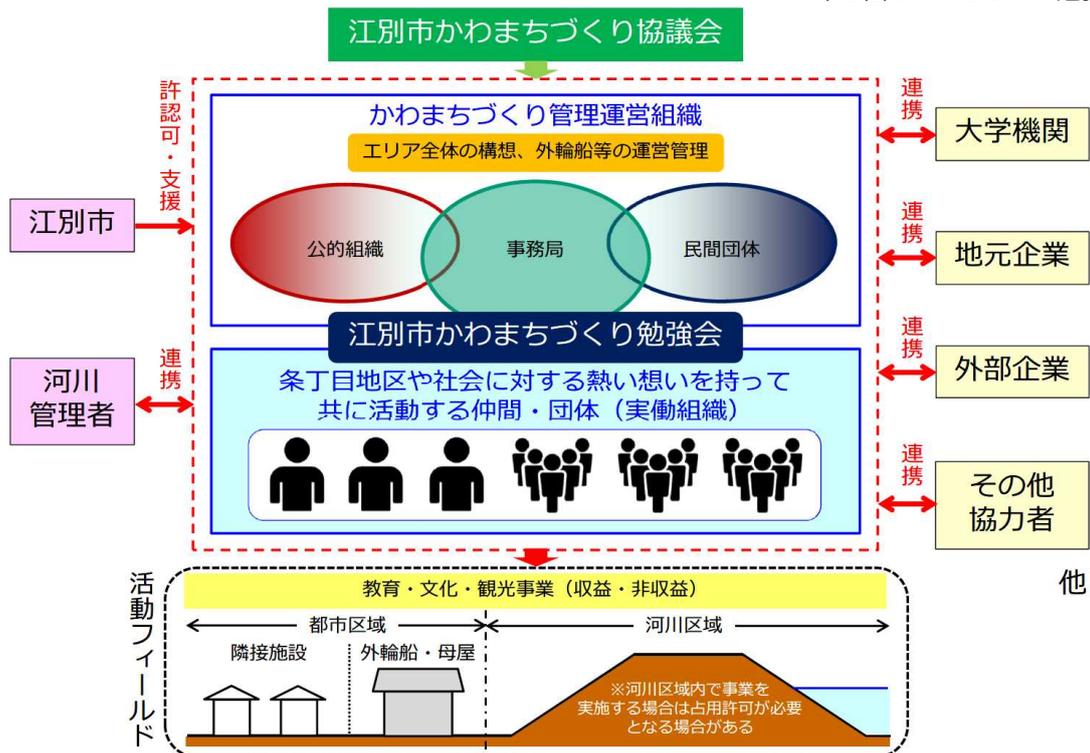
江別市街築堤整備（石狩川・千歳川堤防整備）に伴い移設を要する旧岡田倉庫の利活用方法等について検討するとともに、旧岡田倉庫周辺の河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組（以下「かわまちづくり」という。）について協議することを目的とする。

2 現在の組織体制



3 管理・運営組織の実施体制（案）

※第8回かわまちづくり勉強会資料抜粋



4 かわまちづくり協議会委員の任期延長について

かわまちづくり協議会は、旧岡田倉庫を中心としたかわまちづくりについて協議することを目的として設置され、委員の任期は、令和4年3月31日までとしております。

市といたしましては、令和4年度以降もかわまちづくりの具体的な施策及び運営等について、当協議会にて議論を継続していただきたいと考えておりますことから、委員の皆様のご意向を確認させていただいた上で、委員の任期を1年延長させていただきたいと考えております。

(1) 延長後の任期

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

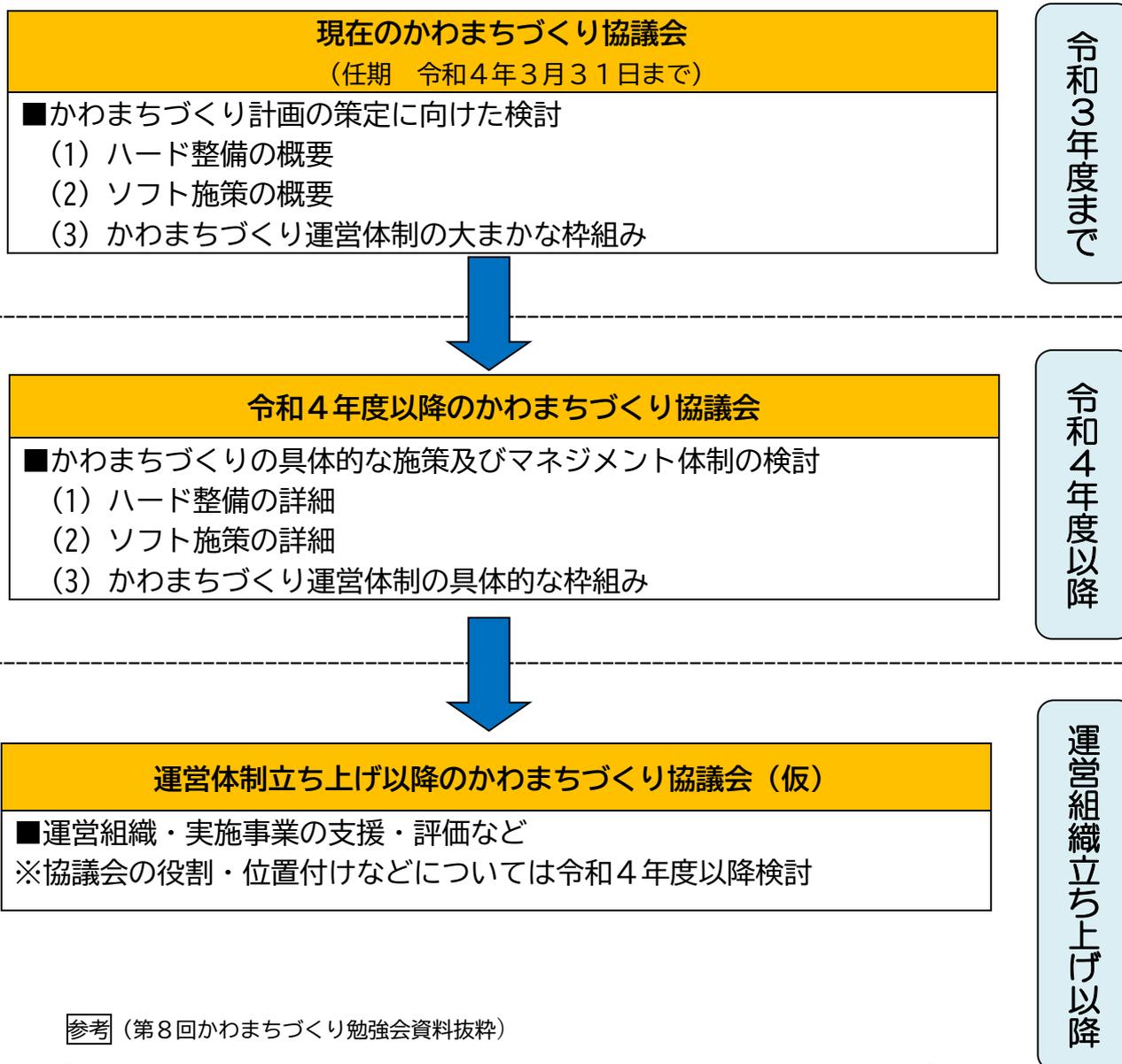
(2) 各委員の任期延長について ※令和4年3月3日に各委員へ意向確認を実施

- ① 任期を延長する委員 6名
- ② 任期を延長しない委員 2名

(3) 新たな委員の委嘱について

関係団体（2団体）へ委員の推薦を依頼する予定

5 今後のかわまちづくり協議会について



参考 (第8回かわまちづくり勉強会資料抜粋)

内容	R4	R5	R6	R7	R8	R9
かわまちづくり協議会・勉強会	運営組織・実施事業の具体化検討			運営組織・実施事業の支援・評価		
旧岡田倉庫（外輪船）移設	設計	整備				
水辺整備（堤防）	設計		整備			
条丁目地区施設整備 （拠点整備、多目的広場、駐車場、街灯・照明、水道・電気施設）	設計		整備			
条丁目地区周辺整備 （周遊コース、案内看板）	設計		整備			